

# 富山まちなか病院再整備等に関する 意見書

令和 7 年 2 月

富山まちなか病院再整備等検討委員会

令和7年2月12日

富山市病院事業管理者 石田 陽一 様

富山まちなか病院再整備等検討委員会  
委員長 舟坂 雅春

令和6年10月28日から令和7年2月3日の間に開催した「富山まちなか病院再整備等検討委員会」における「富山まちなか病院の再整備の方向性」に関する意見は次のとおりです。

## 目次

### はじめに

- 1 現状把握に基づく将来への視点
- 2 再整備における基本的な考え方について
  - (1) 基本理念について
  - (2) 基本方針（ありたい姿、病院像）について
  - (3) 医療機能の方向性
  - (4) 整備場所
  - (5) 整備内容
- 3 経営改善の取り組みについて

※富山まちなか病院再整備等検討委員会 開催経過

※富山まちなか病院再整備等検討委員会 委員

はじめに

富山市病院事業局が運営する富山市民病院及び富山まちなか病院においては、国の主導する「高度急性期・急性期医療から在宅医療」までの医療機能の分化・強化、連携に向けた取組みを進めるために、地域に根ざした病院として、必要な医療の確保を行うほか、新興感染症の感染拡大時や災害時などにおいては、公的病院として政策医療を担う必要があるものと認識しております。

一方で、両病院は、施設及び設備の劣化や老朽化が進んでおり、今後、安定した医療サービスの提供に支障を来す懸念があったことから、富山市病院事業局では、令和5年度に、医療関係者及び有識者で構成する「富山市病院事業あり方検討協議会」を設置し、まずは、築60年が経過している富山まちなか病院について検討したところ、これまでの役割や機能が再評価されるとともに、施設整備のあり方についても検討を始めるべきとの意見が出されたところであります。

このことから、令和6年度には、更に詳細な検討を行うため、新たに医療関係者及び有識者で構成する「富山まちなか病院再整備等検討委員会」を設置され、令和6年10月から令和7年2月までの間、計3回の検討を行ったところであります。

この検討委員会では、今後の人口動態や医療需要等を見込みながら、富山まちなか病院の再整備における、基本理念や基本方針、担うべき医療機能、場所や手法等といった再整備の基本的な考え方のほか、大きな設備投資が予想されるなかで、将来世代への負担を考慮しつつ安定した医療提供と健全経営の両方が実現できるよう、富山まちなか病院独自の経営改善についても幅広い議論、提案を行い、委員会としての考えをここに意見書として取りまとめたものであります。

富山市病院事業局におかれましては、今後の基本構想の策定には、この意見書の内容を十分に検討・精査されるとともに、地域住民や患者等へのアンケートやパブリックコメントの結果なども参考にされるなど、今回の再整備が、将来にわたって市民が必要とする安心・安全な医療の提供に繋がるものとなることを期待するものであります。

## 1 現状把握に基づく将来への視点

人口減少や少子超高齢化の急速な進展により劇的に変化する医療情勢の中で、都心地区に位置する富山まちなか病院に求められる役割について考えたところ、今後も地域病院として、地域包括ケアシステムの一翼を担うとともに、地域医療構想の実現に向け、医療需要を適正に見込んだ病床の確保、必要な医療サービスの持続的に提供することが求められる。

そのためには、再整備を機に、医療機関や関連施設との連携や機能の分担について検討するとともに、現下の収支状況を踏まえた経営改善の実行による健全経営の実現はもとより、施設の老朽化への対応や患者、医療人材の安定的な確保など、富山まちなか病院が抱える課題の解消に努める必要がある。

## 2 再整備における基本的な考え方について

### (1) 基本理念について

現行の「経営理念」を継続すべきである。

|                                                    |
|----------------------------------------------------|
| 市民の命を守り 健康な暮らしを支えるために 地域に開かれ 地域に密着した 地域のための病院であること |
|----------------------------------------------------|

### (2) 基本方針（ありたい姿、病院像）について

富山まちなか病院の再整備にあたっては、基本理念にあるように市民に寄り添った病院であることを念頭に、これまでの機能、役割に、機能強化策として、以下のことを検討してもらいたい。

① 都心地区唯一の公的病院として、持続的に安定した医療を提供すること。地域住民の幅広い診療窓口となること。急性期病院から在宅への橋渡しとなる回復期病院としての機能を有することに加え、高齢者救急にも対応すること。

② 市内急性期病院と協力して患者さんの在宅復帰を支援する後方連携病院としての受け皿機能に加え、開業医、訪問看護ステーション、介護事業者等との連携により、重症化前の治療を試みること。

また、自宅や施設で療養中の患者の容体悪化時や、家族等が、介護者の休息のための一時的な入院に対応するなど、地域包括ケアシステムの重要な役割を担うこと。

- ③ 退院後の在宅医療の機会が損なわれることの無いよう、訪問診療や訪問看護等の在宅医療の提供を継続すること。
- ④ 医療資源の確保が困難となってきた中で、将来にわたって医療人材を確保するため、総合診療医育成のための専門研修連携施設を目指すなどし、チーム医療を通じてプライマリ・ヘルスケアを担う医療人材（医師、看護師、コメディカル等）の育成・研修の場を確保すること。
- ⑤ 職場環境については、職員が働きやすく、働きたいと思える環境を整備する必要がある。スタッフ休憩室等の充実のほか、産休や育休、時短勤務等の子育て世代職員への配慮など、職場環境の改善と職員のワークライフバランスにも寄与するなど、充実した職場環境の実現に努めること。
- ⑥ 医師の働き方改革や担い手不足により、効率的な病院運営が必須となつてい  
る中で、待ち時間の可視化など、デジタル機器の導入及び活用に加え、DXを推  
進することにより、患者さんには利用しやすく、職員が働きやすい病院を目指  
すこと。

### （３）医療機能の方向性

都心地区唯一の公的病院として回復期機能を中心とした医療提供体制の維持のほか、在宅医療や高齢者救急への対応の強化、地域医療構想の実現のための回復期病床を確保、富山市民病院をはじめとする急性期病院からの患者受け入れを行う後方連携病院としての役割も担うべきである。

病床数については、増床する場合であっても地域医療構想における回復期病床の不足数を念頭においた病床数とされたい。

診療科については、現行の５科体制（内科、外科、整形外科、婦人科、眼科）となっているが、現行の体制を市民病院や近隣の開業医との機能の重複や今後の医療需要などの点から精査し、総合診療科の設置を含め、将来的に必要と見込まれる診療体制に集約、再編することを検討されたい。

健診機能においても、診療科と同様、検査項目を精査し、市民病院への集約を検討されたい。

在宅医療については、訪問診療を継続するほか、在宅医療と入院診療のシームレスな連携と医療人材確保の面から、将来的なまちなか診療所とまちなか病院の連携方法について検討されたい。

このほか、政策医療（救急医療、災害医療、感染症医療等）は、公的病院の責務として継続されたい。

#### (4) 整備場所

現在地（鹿島町）のほか、市有地（小学校跡地）や都市公園が移転候補にあったものの、立地面、今後の活用見込み、新たな調整項目の有無等から、現在地（鹿島町で）が適地であると考ええる。

#### (5) 整備内容

再整備は、今後、診療科や健診機能についての検討を行い、将来的に持続可能な医療機能について精査したうえで行うとともに、整備期間中も極力、医療機能を停止させることの無いようにすること。

また、整備手法については、「入院棟を増築し既存施設を改修する案」と「建替えを行う案」が示されたところであるが、事業費及び収支、将来世代への負担などを考慮に入れると、「入院棟を増築し既存施設を改修する案」が望ましいと考える。

### 3 経営改善の取り組みについて

令和3年度に全病床を地域包括ケア病床に転換して以降、入院収益が伸びており、令和元年度に約3億2,500万円であった赤字額が、令和5年度決算では、約6,700万円に縮小していることは評価できるものの、再整備には大きな投資が必要となることを踏まえ、将来世代への負担を考慮しつつ安定した医療提供と健全経営の両方が実現できるようにするためには、富山まちなか病院独自の更なる経営改善が必要であり、コスト管理の徹底や新たな収入源の開拓も含めた収益性向上のための施策を講じられたい。

具体的には、令和6年から取り組みを開始している院内プロジェクトチームの活動において、新たな加算等の獲得など収益の増加策の取り組みを継続するほか、同規模病院等との比較による人員配置、給与水準の適正化など費用の削減策の検討及び実現に努めるとともに、医療機器及び設備の投資については、必要最小限の範囲にとどめるなど、慎重に判断されたい。

## 富山まちなか病院再整備等検討委員会 開催経過

| 日時等                          | 議事等                                                                                                                                                                     |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回<br>令和6年10月28日<br>出席委員数8名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>検討委員会での議論について</li> <li>今後のスケジュールについて</li> <li>再整備等に向けたこれまでの検討状況について</li> <li>アンケートの実施について</li> </ul>                             |
| 第2回<br>令和6年12月17日<br>出席委員数8名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回検討委員会の振り返り（議事録報告）</li> <li>第1回検討委員会の振り返り（質問と対応）</li> <li>第2回検討委員会の論点</li> <li>アンケート結果の報告</li> <li>基本構想（素案）の説明と意見集約</li> </ul> |
| 第3回<br>令和7年2月3日<br>出席委員数8名   | <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回検討委員会の振り返り（議事録報告）</li> <li>パブリックコメント結果の報告</li> <li>最終的な意見の集約と意見書（案）の内容協議</li> <li>基本構想（案）の説明と意見集約</li> </ul>                  |

## 富山まちなか病院再整備等検討委員会 委員

委員一覧（50音順・敬称略）

| 委員名        | 所属・役職など         |
|------------|-----------------|
| 岡本 里美      | 富山県看護協会 会長      |
| 高城 繁       | 富山市社会福祉協議会 会長   |
| 高村 昭輝      | 富山大学学術研究部医学系 教授 |
| 玉生 成幸      | 安野屋地区自治振興会 会長   |
| 西田 政司      | 富山市副市長          |
| 布目 剛       | ぬのめ会計事務所 所長     |
| 舟坂 雅春（委員長） | 富山市医師会 会長       |
| 守田 万寿夫     | 富山県厚生部 次長       |